全財務局　管内経済情勢報告

	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回との基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	緩やかに回復しつつあるが、中東情勢の影響を注視する必要がある	緩やかに回復しつつあるが、中東情勢の影響を注視する必要がある	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつあるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。企業の人手不足感は続いている。

財務局名	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回との基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	持ち直している	緩やかに回復しつつある	↗	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。観光は、緩やかに拡大している。
東　北	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが緩やかに持ち直しつつあり、輸送機械が回復していることなどから、持ち直している。雇用情勢は、有効求人倍率がおおむね横ばいで推移する中、新規求人数が前年を上回っており、企業の人手不足感が引き続き高い状況にあることなどから、緩やかに持ち直している。
関　東	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械などが減少しているものの、生産用機械や化学などが増加しており、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、改善しつつある中、企業の人手不足感は続いている。
北　陸	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、観光やイベント関連が堅調であるものの、物価上昇を背景に節約志向が続いていることなどから、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、電子部品・デバイスや生産用機械が改善していることなどから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。
東　海	回復しつつある	回復しつつある	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、自動車関連を中心に回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている。
近　畿	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
中　国	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械などが減少しているものの、化学や電気機械が増加しており、持ち直しつつある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、緩やかに改善しつつある。
四　国	緩やかに持ち直している	持ち直している	↗	個人消費は、ドラッグストアが順調となっているほか、スーパーが底堅いものとなっていることから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、化学が持ち直しているほか、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直しており、電気機械が緩やかに持ち直しつつあることから、全体としては持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。
九　州	令和8年熊本地震前は、回復しつつあったが、現時点では、まずは地震による地域への影響全体について十分に把握する必要がある	令和8年熊本地震の影響が一部に残ることから、回復に向けたテンポが緩やかになっている	↘	個人消費は、地震の影響が一部に残ることから、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、地震の影響が一部に残ることなどから、足踏みの状況にあるものの、足下では正常化に向けた動きがみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつあるものの、地震の影響を十分に注視する必要がある。
福　岡	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
沖　縄	緩やかに拡大しつつある	緩やかに拡大しつつある	→	個人消費は、緩やかに拡大しつつある。観光は、台風の影響がみられるものの、旅行需要は堅調であることから、拡大しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

（注１）　8年10月判断は、前回8年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。
（注２）九州は、前回8年7月経済情勢報告における令和8年熊本地震発生前の状況と、令和8年熊本地震発生後から足下の状況までを含めた期間での判断との比較を行っている。
（注３）下線部が基調判断。